

TPPをめぐるあれこれ 食の安全・安心・安定が危ない!

農民組合 佐保庚生

TPP交渉 いまどこまで?

分野	内容	交渉状況
物品市場アクセス	関税の削減や撤廃	×
原産地規制	関税減免の対象となる商品の基準	×
貿易救済	セーフガードなど輸入急増への措置	○
政府調達	公共事業の発注ルール	×
知的財産	模倣品や海賊版対策、医薬品の特許	×
競争政策	カルテルなどの防止、国有企業の扱い	×
越境サービス	サービス分野のルール	○
金融サービス	国境を越えた金融規制	△
投資	内外投資家を差別しない、外国企業と投資先の政府の紛争解決 (ISDS条項)	△
環境	貿易や投資促進のため環境基準を緩和しない	×
紛争解決	参加国同士の争いを解決する手続き	○
貿易円滑化	税関手続きの簡素化	○
衛生植物検疫	食品の安全や動植物が病気にかからないようにするルール	○
貿易の技術的障壁	安全基準の企画などが貿易の障害にならないようにする	○
商用関係者の移動	海外出張者の入国手続きの簡素化	○
通信サービス	通信網利用などのルール	○
電子商取引	インターネットを通じた取引の環境・ルール整備	○
労働	貿易や投資促進のために労働基準を緩和しない、漁協補助金も扱う	△
制度的事項	協定の運用を協議する委員会の設置	○
協力	協定を守る体制が不十分な国への支援	○
横断的事項	複数分野にわたる規制への対応	○

食の安全を指標で見ると

- ① 食料自給率 27%に...農業の多面的機能損失
- ② 既に高い自由化率...86%・輸入品目9018品目
- ③ 関税撤廃で自由化率90%になれば重要5品目(コメなど)は守れない。

TPP参加による農産物への影響試算

品目	残存率	生産減少額
米	88%	約1兆100億円
小麦	1%	約770億円
大麦	21%	約230億円
砂糖	0%	約1500億円
でんぷん原料作物	0%	約220億円
牛乳乳製品	55%	約2800億円
牛肉	32%	約3600億円
豚肉	30%	約4600億円

(内閣府資料から作成)

所得倍増など、とても無理

	現在	2020年
米の生産コスト (財界の要求)	16,000円	9,600円 7,000円
農林水産物輸出額	4,500億円	1.2兆円
うち国産農産物	270億円	1,000億円
6次産業の市場規模	1兆円	10兆円
農産・食料関連産業	100兆円	120兆円
担い手への農地集中	49%	80%

TPP由来の規制緩和

- ① 輸入牛肉BSE対策の規制緩和
2013年2月から月齢30ヶ月以下牛に...と緩和。米国にはトレーサビリティない。米国产牛の輸入は数年間で数億ドルになる。
2012年4月24日、カリフォルニア州月齢30ヶ月以上の乳牛1頭にBSE発生。
- ② 残留農薬基準緩和
最大残留許容値に緩和...現在、日本で不使用又は使用基準のない農薬は一律 0.01ppm/kgとしています。これが不当だとしている。
・殺虫剤クワダリンでは、米基準8ppm/kg、日本0.1ppm/kg
・殺菌剤キャプタンでは、米基準6ppm/kg、日本0.1ppm/kg これらを米に合わせる。
- ③ 食品添加物基準の緩和
認承手続き簡素化・迅速化・米許可添加物3000品目、日本は約800品目。
ポストハーベスト農薬を食品添加物として認めよ!
- ④ 食品表示基準の見直し・緩和
遺伝子組換え食品の表示義務廃止要求・「組み換えでない」これも障壁
- ⑤ 原産地表示の見直し
- ⑥ 衛生植物検疫などルール見直し

大事なこと

- ① 関税撤廃と非関税障壁=究極の自由化
「TPPの輪郭」には「関税・物品・サービスの貿易および投資に対するその他の障壁撤廃」と書かれている。関税撤廃が原則。
- ② USTRの公表した交渉結果
2国間協議の結果・米の自動車関税最長期間維持:日本の非関税措置緩和。輸入自動車特別取り扱いの緩和。
- ③ TPPとの並行協議はTPP交渉終了までに完了。
衛生・植物検疫など両国間で合意する。
食品添加物・リスク評価の加速・簡素化・農薬、牛肉ゼラチン・コラーゲンの食用への解禁。

聞き捨てならないこぼれ話

米・ウイスコンシン大学の某教授は講義の中で「食料は武器だ。日本が標的だ。食料だけでなく畜産エサが重要だ。日本で畜産が行われているがエサ穀物をすべて米国から供給すれば日本を完全にコントロールできる。これを世界に広げるのが米戦略だ。みなさんに頑張って欲しい」この場に日本の学生が居たことを教授は知らなかったらしい。そして「東の海の小さな国はよく働く。勝手に動かされては不都合だからエサで引っ張り！」と言った。